

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	四日市市児童発達支援センター あけぼの学園		
○保護者評価実施期間	令和7年10月22日		～ 令和7年12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	148人	(回答者数) 59人
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和8年1月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数) 36人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者通園をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とともにごきょうへのかかわり方を一緒に考えている</li> <li>・家庭でもできるようなあそびやかかわりを提案している</li> <li>・親子(保護者)の愛着関係がより深まることを意識してかかわっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も保護者通園の意義を保護者に伝えていく</li> <li>・日々の支援の充実に向け、保育士の資質向上をする</li> <li>・今、行っている具体的な取り組みを保護者により丁寧に伝えていく</li> <li>・ごきょうも保護者も安心して過ごし、楽しく遊ぶ中で心身の発達を促す支援を行っていく</li> </ul>
2	ごきょうの発達を促したり、様々な方向からのアプローチを行ったりしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な職種が連携を取り合い、一人一人のごきょうについて一緒に考えている</li> <li>・様々な身体運動や感覚あそびなどができる環境の充実に努めている</li> </ul>	
3	発達支援中に保護者支援を行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス懇談会や全体研修などを通して、発達等について学ぶ機会を作ったり、保護者同士のつながりを目指したりしている</li> <li>・保護者の状況を把握し、必要な援助・支援・対応を臨機応変に行っている</li> <li>・ごきょうと同じ目線で感じたり遊んだりする中で、ごきょうの課題を共有し、かかわっている</li> </ul>	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害児通所施設に通園することにためらう保護者もいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルージョンの考え方がまだまだ浸透しておらず、「あけぼの学園に通園している」「専門職による個別支援を受けている」ことが「障害のある子」という見方につながる不安が保護者にあるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人一人のごきょうがその子らしく安心して地域の中で過ごす」「保護者が地域の中でその子らしくごきょうを育てていく」ことができる世の中となるよう、児童発達支援センターとしての役割を考え、取り組んでいく。</li> </ul>
2	情報発信について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事予定表などのおたよりを毎月発行している。また、ホームページには事業の概要を掲載し、評価表のまとめ、自己評価表等を毎年更新している。ホームページがあることを園内に掲示して知らせているが、まだ周知が足りない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページをさらに多くの方に見てもらえるよう周知に努める。ホームページ以外での情報発信を検討していく。</li> </ul>